

日本の方言の傾向について

山元謙二郎 23B13430
東京工業大学工学院

1. はじめに

私が今回調べるのは「日本の方言は北から南に下るにかけて傾向があるのか」である。日本の各地に存在する方言が地理的に近ければ、共通点が多いのか、それともそれぞれの方言が独立して発達したのかについて調査する。

2. 方法

何個か日常的に使われている単語を選び、その単語が各地の方言で何と言われているのか文献を用いて調べる。そして、各方言の共通点、相違点について考える。

3. 結果

その1 「言い争う」
山形県「アラガウ」
新潟県「キバル」
千葉県「ハッカスル」
長野県「ガリアウ」
滋賀県「コゴトラスル」
広島県「アラガウ」
その2 「落とす」
栃木県「カッポログ」
岐阜県「オトラカス」
京都府「アダカス」
高知県「コカス」
長崎県「カッカヤス」
その3 「はにかむ」
秋田県「ワニル」
群馬県「ハガム」
奈良県「ハジカム」
徳島県「シケル」
鹿児島県「セケル」
その4 「転ぶ」
宮城県「サライコロブ」
岐阜県「カロガウ」
京都府「グゼル」
香川県「ウトル」
福岡県「サデコロブ」

4. 考察

まず、「言い争う」についてだが千葉県と滋賀県の方言はどちらも「～スル」という形であるという共通点はあったもののその中間にある長野県はこの形ではなく、ほかの方言についても、近くの方言同士で似てる点はあまり見られなかった。

次に「落とす」については岐阜から長崎にかけて「～カス」という形で終わっており、少し傾向が見られたもののそれ以外の共通点は見られなかった。

「はにかむ」については、群馬と奈良、徳島と鹿児島の方言がかなり似ており、上の二つよりも強い傾向が見られた。ただ、奈良と徳島の共通する部分がほとんど無く、日本全体としての傾向はあるとは言えないと感じた。「転ぶ」に関しては近い方言同士でも共通点はあまり見られなかった。

まとめると比較的近い地域でもあまり共通点はみられず、各地の方言はそれぞれの地方に住んでいた人が周りからの影響を受けずに、集落内で生み出したものが大半であると考えられる。

5. おわりに

日本の方言には傾向があるのかについて調べるために、いくつかの単語が各地で何と呼ばれているのかについて調査したが近くの地域においても方言が全く似ていないことが多く、日本の方言には傾向はないと言える。

文献：
倉持保男（1988）方言小辞典 東京堂出版 19,65,119,209
必ず文献を付ける。Google Scholarで調べると良い。URLを掲載すると減点する。